



トイレ操作パネルの絵記号を標準化

トイレ・洗面室まわりの業界団体、一般社団法人日本レストルーム工業会は1月17日、トイレ操作パネルにおける絵記号「ピクトグラム」の標準化を図るため、主要8項目のデザインを発表した。

訪日外国人観光客の増加を受け、「誰にでもわかりやすいトイレ空間」を目指した。同工業会に加盟する国内主要メーカー9社の2017年度以降の新製品に順次採用していく予定。

今回発表した標準ピクトグラムは、「便ふた開閉」「便座開閉」「便器洗浄(大)」「便器洗浄(小)」「おしり洗浄」「ビデ洗浄」「乾燥」「止」の基本操作に関する計8種類。2014年から検討してきた。策定にあたっては、日本だけでなく海外も対象としたアンケート調査での検証を行って、直感的なわかりやすさを追求した。



情報提供： 新建ハウジング

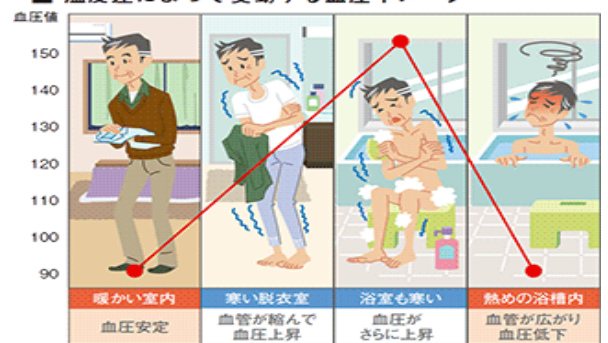
住宅の断熱化と健康への影響調査で中間報告

一般社団法人日本サステナブル建築協会は1月13日、住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する調査の中間報告を行った。それによると、冬期において起床時室温が低いほど、血圧が高くなる傾向がみられ、高齢者ほど室温低下による血圧上昇が大きいことが確認されたという。また、断熱改修によって室温が上昇することで居住者の血圧が低下する傾向も確認されたという。

本調査で得られた1753人の有効サンプルを用いた分析の結果、冬期の朝に室温が10℃低い場合には血圧が7.3mmHg高くなったという。また、年齢が10歳高齢になると8.8mmHg高くなったという。

寒い家に住んでいる人は入浴事故リスクが高いとされる湯温が熱め(42℃以上)の入浴をする確率が高いこともわかった。同調査は、2014年度から国土交通省の予算による「スマートウェルネス住宅等推進事業」で、住宅の断熱化が居住者の健康に与える影響を検証することを目的に実施されているもの。断熱改修を予定する全国約1800軒の住宅に住む約3600人を対象に、改修前後で居住者の血圧や身体活動量の変化などを調べた。

■ 温度差によって変動する血圧イメージ



情報提供： 新建ハウジング

ストロンガードタイル工法を開発

アイカ工業株式会社は、下地の不陸調整からタイル張りまでを1種類の方法で行え、セメントモルタルを用いた従来工法に比べタイルの剥離・剥落リスクの低減が期待できる新工法を開発した。セメントモルタルによる施工は、気温・湿度の変化による材料歪みや地震によるタイル剥落のリスクが高いという問題が指摘されています。一方、弾性接着剤はモルタルのように厚塗り塗布ができないため、下地に大きな不陸がある場合は不陸調整が必要。そこで、下地調整およびタイル張り工程を全て弾性接着剤にて実施する外装タイル張り工法「ストロンガードタイル工法」を開発。当工法では、専用下地調整材兼タイル張り接着剤「アイカエコエコボンド SE-35H」のみを用いて下地調整からタイル張りまでを行うことが可能。

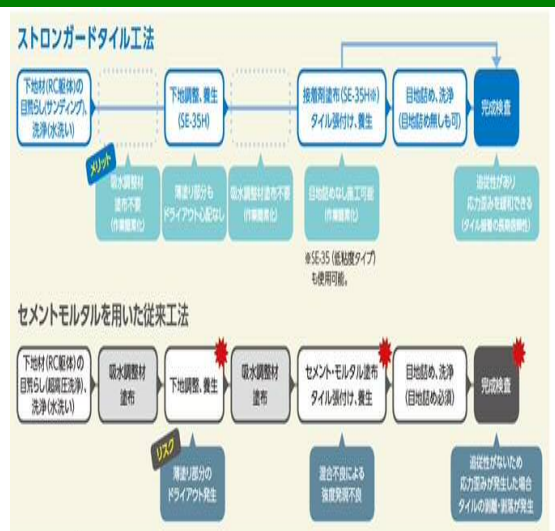
商品名： アイカエコエコボンド SE-35H

主成分： 変成シリコーン樹脂

色調： ブラック、ダークグレー、ライトグレー、ホワイトの4色

梱包： 2kg アルミパック×9本入/段ボールケース

価格： 2,000円/本



情報提供： アイカ工業